

2022年8月21日

子どもの日本語教育研究会 研究企画委員会 Project-B

## 活動報告 読書会(10) 『思考と言語 新訳版』 第7章 1-3節 思想と言葉

ヴィゴツキー,レフ.セミヨノヴィッチ著、柴田義松訳(2001)『思考と言語 新訳版』新読書社

この本のタイトル『思考と言語』の原題は、ロシア語で *Мышление и речь* です。本書では、“*речь*” は「ことば、言語活動」、“*Слова*” は「言葉」、*Язык*” は「言語」、と訳して使い分けられ、それらと思考に関する問題を、実験心理学のアプローチで、さまざまな角度から解き明かしていく内容です。私は日本語教師という“*речь*” を扱う仕事をしているのに、この本に出会うまで、これほど“*речь*” の本質的な役割について深く考えたことはなく、また、“*речь*” の獲得が、子どもたちの思考とどのようにつながり、広め、深めていくかということについても、この読書会に参加し、メンバーとのディスカッションを通してなんとか理解し始めているところです。恥ずかしながら…。

7章のヴィゴツキー研究全体の基本テーゼは、「言葉の意味は発達するということの解明」です。そして、それを解明するには「内言」が鍵になるとし、内言の構造やその発生、「自己中心的事物」とば」に関する研究について述べています。その中で心に留まったヴィゴツキーの語り、

ことばの構成は、思想の構成の単純な鏡のような反映ではない。それゆえ、ことばはレディー・メードの服のようにして思想に着られることはできない。ことばは、既成の思想の表現に奉仕するのではない。思想はことばに転化するとき、けずり直されたり、変形させられたりする。思想は、言葉で表現されるのではなく、言葉で行われるのである。

(p368)

これを読み、私は子どもたちに日本語を教えるとき、寸法通りの出来合いの服(思想)を探して、それを着せようとしているのではないかとハッとしました。「言葉の意味は発達する」ということ、そして、その発達の過程に必要なことのひとつを、「社会的ことばから分離されていないこと」とであるとヴィゴツキーは強く唱えています。言葉の意味の発達に社会的ことばが欠かせないのは、私自身がこの読書会で、ことばの理解を深めるためにメンバーとのやりとりが欠かせないことから非常に納得しています。

“*речь*” を扱う日本語教師としての役割は、子どもたちが「社会的ことば」を通して、「言葉の意味が発達する」過程を丁寧に見守りながら、思想を言葉で行うために必要なことはなにかを考え、それを教育活動の中で実践していくことではないかと考えるようになりました。

(立山)